

黒島 二十七歳  
本間 一也さん

今年の黒崎まつりで、商工会の神輿にまたがり「セイヤツ、セイヤツ」と勇壮な掛け声をだし、ふるさと村で行われたおまつり広場で軽妙な司会をしたリーゼントの青年を皆さんは覚えていらっしゃるか。その人が本間さん。現在彼は、板前として修業の身だが、二年前までは新潟市内のライブハウスでバンドのボーカルとして活躍していた。

本間さんは大阪の天王寺に生まれ、幼い頃から母親が好きな日劇のウエスタンカーニバルやブレスリーなどのハミリを見て育った。

「天王寺は、有名ミュージシャンがギター一本抱えて路上セッションをするようなまち」だったそうで周りの環境や母親の影響で中学一年に本格的に始め、二年の夏には、「ムーンバード」というグループを結成し大阪、神戸、広島、京都などのライブハウスで活動した。

その後プロのバンドとして全国をライブツアーで駆け回っていた。「有名アイドルタレントのバックでギターを弾いていました」バックバンドの仕事も多かった。そのほか、「コーラスや新人歌手のレッス

ン、振付などほとんど便利屋さん状態でした」と笑わせてくれた。新潟のライブハウスで演奏するようになったのが約四年前のこと

りもスタートが遅いし、自分よりも年下の人がバンバンやっているのを見ると、やめて大阪に帰りたいなと思った事もありましたね。でも家族がいてくれたから逃げ出さずにすんだ」そう、今は一日も早く一人前になろうと意欲的だ。



写真／一昨年の12月26日、新潟市内のライブハウス「セントス」で最後の出演の時に撮影したもの。多くのファンが詰めかけ、別れをおしんだという。左上＝本間さん。忙しい仕事の合い間をぬってお子さんと撮影させていただいた。

そんな本間さんだが、今年の黒崎まつりに商工会青年部の一員として参加し、まつりを盛り上げた。まつりの感想を聞くと「楽しかったという一言です。まつりは、その町を活性化させるための一つの手段だと思う。まつりで大野の街が発展すればよいと思うし、黒崎町の良さや色をだしていきけるように、皆の気持ちが一つにまとまるまつりをやってほしいし、やらなければ」と話す。さらに「最初に黒崎に来た時はごっつい田舎と思っただけど、今はずっと昔から住んだような気がする。この町にもっととけこみたいし、この町で働きたいと思います」と黒崎を愛する心は強い。

まつりを行い、盛り上げるためには多くの人の力が必要と本間さんは言う「来年のまつりは、もっと面白くなっていくと思う。そのためには皆さんからまつりを知って参加してほしい」と呼びかけた。

ほんの一冊



「新釈遠野物語」

井上ひさし著 新潮文庫

井上ひさしによる9つのお話からなる一昔前の物語。岩手県の遠野と釜石の中間の山奥にある国立療養所に勤める『ぼく』は、山の岩穴に住む犬伏太吉老人から、療養所の昼休みに出かけて行ってお話を語ってもらうのが楽しみだった。昔話とも身の上話ともつかない大正から昭和にかけての不思議な話は、真偽のほどはさておき、とにかくおかしい。物語とは作り話であるが、作り話とわかっていながら惹き込まれる、物語のからくりを見せてくれる作品である。柳田国男を意識しているが、遠野物語の興味で読む人にはあまりおすすめしない。「面白い」という満足感が欲しい人におすすめ。(中山佳奈恵)

(中山佳奈恵)

| 9月末日現在 (前月比) |              | 前年    | 前年    |
|--------------|--------------|-------|-------|
| 人口           | 24,027 (-22) | [+36] | [+36] |
| 男            | 11,785 (-12) | [+17] | [+17] |
| 女            | 12,242 (-10) | [+19] | [+19] |
| 世帯           | 6,728 (+5)   | [+61] | [+61] |
| 9月1日～末日      |              |       |       |
| 出生           | 14           | 転入    | 31    |
| 婚姻           | 14           | 転出    | 59    |
| 死亡           | 8            |       |       |



▼十月も末に近づくと、朝晩肌寒さを感じるようになり、おでんなどの鍋物が恋しい季節となってきましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。おでんという屋台や縄のれんのイメージがあり、ちょっと若向きでない感がありますが最近ではコンビニなどで売られていて、おかずに買っていく姿も見かけます。▼おでんというのは、煮込み田菜の愛称のこと、田菜の語源は田植えのとき豊作を祈って踊った田菜舞いに関係があるといわれています。その田菜は、豆腐を焼いてみそをつけてたものが起こりだったようです。▼その後、こんにやくや大根、里芋などの野菜類、アユやウグイ、ヤマメなどの魚類にも田菜の手法を使いました。魚類の場合を魚田(ぎょでん)野菜類の場合をおでんと呼ぶようになりまして、やがて煮こみにしたものを、便宜上おでんと名づけたのです。▼十一月は「ゆとり創造月間」です。家族そろって鍋物を開き、ゆとり休み機会をもちたいですね。

◎さて、来月号は、文化祭、農業まつりなどの模様をお伝えしたいと思います。

